

2025年度
スローガン

未来を創る 変革の一步

2025年度 外報紙



9月例会

お寺で体験

マインドフルネス

9月28日(日) 天照寺

企画担当 ■次代へ繋ぐ総務拡大委員会■

二〇二五年九月二十八日(日)に長野県長野市篠ノ井小松原の天照寺にて九月例会「お寺で体験 マインドフルネス」を開催致しました。本例会は会員の資質向上に向け、早朝よりお寺での座禅、そして和尚様の講和、食事指導を体験してまいりました。早朝慌ただしく過ごすことが多い中、座禅を通じて心にゆとりを持たせ、普段聞き逃してしまう自然の音を耳にし、

またその心が大きなゆとりになり、生活の質の向上に繋がることを実感することが出来ました。また食事を通じ感謝の心と命を頂いていることの再認識をさせていたできました。青年会議所会員は地域のリーダーとして模範になるよう努めていくことが大切であり、今後この体験が参加者の心の成長に大きく寄与したものと感じました。



委員長所感

本年度九月例会「お寺で体験 マインドフルネス」は、長野市篠ノ井小松原・天照寺様のご協力のもと、早朝座禅・和尚様の講話・食事指導という、日常では得難い貴重な学びの場を提供していただきました。参加したメンバーは、静寂の中で自身と向き合い、普段の生活では気づくことのない自然の音や心の動きを感じ取ること、心身の調和を取り戻す時間となりました。特に、座禅を通して生まれる「心のゆとり」は、私たちが地域のリーダーとして人々の前に立つうえで欠かせない姿勢であり、また食事指導から学んだ「感謝の心」は、命をいただいているという当たり前に「感謝の心」は、命をいただいているという当たり前に学ばせていただきました。本例会で得た気づきと学びは、参加者一人ひとりの心の成長に大きな影響を与え、今後の青年会議所運動の原動力となるものと確信しております。ご協力いただきました天照寺の皆様にも心より感謝申し上げます。ご協力いただき、本体験を地域社会のより良い未来づくりに繋げてまいります。

池田 純也

2025 Pick Up!
新入会員

百瀬 千晴

37歳

2025所属委員会

次世代を創る交流委員会

会社名

株式会社さくら

会社事業内容

飲食店、介護事業

PR

物価高が続く中、飲食店では創業時から値段を上げずお客様に常に感謝、還元の良い気持ちを持ち、値段設定以上の物を提供することを心がけております。介護事業では、お客様の機能維持、アクティビティの充実を大切とし、可能な限り自立した生活を送れるよう、サポートしております。

JCIに入って

よかったこと

団結力と責任感、繋がり、広がりを得られたと思います。

11月委員会事業

ワールドフェスタin長野二〇二五への協力

11月1日(土) セントラルスクウェア
企画担当 ■ 次世代を創る交流委員会

二〇二五年十一月一日(土)にセントラルスクウェアにてワールドフェスタin長野二〇二五に参加して参りました。本年のワールドフェスタでは、当青年会議所の姉妹JCである、JCI KOREA 西大邱のある韓国の伝統遊戯である投壺をご来場の皆様体験していただきました。投壺とは、壺に矢を投げ入れるという遊戯です。しかし遠くから投げ入れるには少しコツが必要になります。参加者の皆様も珍しい遊戯に真剣な表情で挑戦しておられました。また長野市長である萩原健司市長も体験に訪れてくださいました。五回中、三回成功した方には韓国の即席麵であるイワシカルクスのプレゼントも行いました。



委員長所感

古川 諒一

二〇二五年十一月一日、長野セントラルスクウェアにおいて、十一月委員会事業「ワールドフェスタin長野二〇二五」へ参加致しました。

南長野青年会議所はJCI KOREA 西大邱と姉妹締結していることもあり、ワールドフェスタでは例年、韓国の伝統や文化を伝播しております。本年は韓国の伝統遊戯「投壺(トウコ)」をご来場の皆様に体験していただきました。当日は天候に恵まれ、一時行列が出来るほど大盛況になりました。

また、一人五本の持ち矢で三本入れたらプレゼントをゲット出来る様に設定していた為か、皆さんが一投一投真剣に投げており、今回の事業を通じて多くの皆様へ韓国の伝統遊戯にふれる良い機会を創出する事が出来ました。

11月例会

周年つてどうしてやるの？
創立六十五周年・認承五十五周年式典に向けて

11月14日(金) 長野商工会議所篠ノ井支所 二階大会議室

企画担当 ■ 笑顔咲く学び委員会

二〇二五年十一月十四日(金)に長野商工会議所篠ノ井支所二階大会議室にて十一月例会「周年つてどうしてやるの？」創立六十五周年・認承五十五周年式典に向けて」を開催致しました。本例会は翌年に控える創立六十五周年・認承五十五周年に向けて、周年を経験していないメンバーにはその重要性と思いを、経験しているメンバーに対して再確認と若いメンバーに向けてその経験を伝える場として設けられました。また本例会では創立六十周年・認承五十周年時の理事長久保廣範先輩、周年実行委

員長 中村文陽先輩に講師としてお越しいただき、当時どのように周年事業を構築されたのか、どのような点に気を使わなければいけないのか、そして五十周年宣言文に掲げた思いなどを詳細に伝えてくださいました。来年には周年宣言検証を行い、今後五年間の南長野青年会議所の活動の心意気を多くの皆様に発表していかねければなりません。そのために本例会は会員の周年に向けた気持ちを一つにし、創立六十五周年・認承五十五周年に向けた絶好の機会であったものと感じられました。

委員長所感

西澤 雅弥

去る十一月十四日(金)、十一月度例会を開催させていただきました。

次年度に控える「創立六十五周年・認証五十五周年」という記念すべき節目の年を迎えるにあたり、当LOMは周年未経験者が大半を占めるという現状を鑑み、全メンバーで周年の意義を再確認するべく、勉強会形式での開催といたしました。

講師には、かつて周年式典の重責を担われた、第五十代理事長 久保廣範先輩、並びに当時の周年実行委員長であられる中村文陽先輩をお招きし、当時の熱い思いや苦労話など、現役時代を紐解く貴重な講演を賜りました。

本例会を通じ、メンバー一人ひとりが多くの気づきや学びを得たと確信しております。今年度は、他LOMの周年式典への参加者は少数でありましたが、来年度は当団体の周年式典まで限り少ない時間ではありますが、他LOMの周年式典には積極的に参加し得た知見を、単なる情報の共有に留めるのではなく、自らの当事者意識へと昇華させることが肝要です。「我々に何が出来るのか」を真摯に模索し、次代への礎を築くための行動へと繋げていく所存です。

結びに、ご多用の中、現役メンバーのために貴重なお時間を頂戴しました二名の先輩に心より感謝を申し上げ、委員長所感とさせていただきます。



7月例会

JCI-KOREA 西大邸 オンライン交流二〇二五

11月20日(木) 長野商工会議所篠ノ井支所 二階大会議室

企画担当 ■ 次世代を創る交流委員会 ■

二〇二五年十一月二十日(木)に長野商工会議所篠ノ井支所二階大会議室にて七月例会「JCI-KOREA 西大邸オンライン交流二〇二五」を開催致しました。本例会は姉妹JCであるJCI西大邸との交流の一環として開催されました。本来七月に訪日事業が行われる予定でありましたが、先方との日程調整が難しく、十一月にオンライン交流となりました。交流会はJCI西大邸 ナム・サンソン会長と南長野青年会議所 飯田理事長との挨拶から始まり、懇親会では双方の活動報告を行い、互いの取り組みへの理解を深めることが出来ました。今回の交流を通じて、まだ西大邸を訪れたことのないメンバーにも、両LOMの活動や長年続く友情を感じ取る貴重な機会となりました。また最後には韓国語での挨拶を皆で行い、変わらぬ友情を確かめあうことが出来ました。



委員長所感

古川 諒一

二〇二五年十一月二十日、長野商工会議所篠ノ井支所二階会議室にて、七月例会「JCI-KOREA 西大邸 オンライン交流二〇二五」を開催致しました。本事業は西大邸青年会議所との交流である訪日事業が互いの諸事情により実現出来なかった代わりにオンラインで交流を行う目的で開催されました。南長野青年会議所から十名西大邸青年会議所から八名参加し、互いにオンラインにて交流を行いました。

始めに西大邸青年会議所と南長野青年会議所の長きに渡る友情を記念し、双方の青年会議所の会長と理事長より祝辞を送っていただきました。次に互いのメンバー紹介、事業紹介、活動地域の紹介と交流を深めました。一時間弱と短い交流の時間ではありましたが、今までの交流の歴史をオンラインとは言え絶やさず続けられて良かったと思います。

また、最後に西大邸青年会議所のメンバーを南長野に招待出来たのはコロナ前ですので来年の南長野青年会議所の周年式典には是非とも西大邸青年会議所の皆さんを招待したいと思っています。

12月例会

第六十四期生卒業式

12月18日(木) 割烹丸十

企画担当 ■ 次世代を創る交流委員会 ■

二〇二五年十二月十八日(木)、まちの円居食の団欒 丸十にて公益社団法人南長野青年会議所十二月例会「第六十四期生卒業式」が執り行われました。本年は飯田一基君、上條裕太君、青木充君の三名が四十歳を迎え、卒業となりました。第一部では卒業証書の授与が行われました。その後、まちの円居食の団欒 丸十にて本年度最後の卒業生を交えた会食が行われ、卒業生それぞれが卒業に際しての思いを、残るメンバーへ向けてスピーチしてくださいました。三名の卒業生は、南長野青年会議所への感謝の気持ち、青年会議所活動で得た経験をもとに卒業後どのような道を歩むのか、そして残るメンバーにどのような行動してほしいのかを、熱い想いを込めて語られました。

青年会議所は四十歳までという期限がある活動です。この南長野の地で、地域を想う青年たちが集まり、それぞれの情熱を持って活動してきました。そのメンバーが卒業を迎えることは、四十歳まで無事に活動を全うできた喜びと同時に、仲間が去っていく寂しさが入り混じる、感慨深い例会となりました。



12月18日(木)

長野商工会議所
篠ノ井支所
二階大会議室

第三回通常総会

担当 ■ 次代を繋ぐ総務拡大委員会 ■

二〇二五年十二月十八日(木)、長野商工会議所篠ノ井支所二階大会議室にて(公社)南長野青年会議所 二〇二五年度第三回通常総会が開催されました。本年最後となる通常総会では、第一号議案 定款変更(案) 承認に関する件、第二号議案 二〇二六年度監事予定者(案) 選任に関する件、第三号議案 二〇二六年度事業計画(案) 承認に関する件、第四号議案 二〇二六年度収支予算(案) 承認に関する件、第五号議案 二〇二六年度出席義務に基づく会合基準開催数(案) 承認に関する件と本年に関する事項よりも、次年度の活動に関する事項が多く上程され、無事全ての議案が可決されました。



理事	長	井田	信治	君氏
直理	理事	飯田	一基	氏氏
外部	監事	北澤	美紀	氏氏
〃	〃	久保	善幸	氏氏
副理	理事	青木	充	氏氏
〃	〃	古川	諒	君君
〃	〃	西澤	雅弥	君君
専務	理事	池田	純也	君君
委員	理事	黒柳	奈々	君君
〃	〃	池田	純也	君君
〃	〃	山岸	晃	君君
〃	〃	西澤	雅弥	君君
副委	員長	平山	亮弥	君君
〃	〃	古川	諒	君君
〃	〃	瀬山	千晴	君君
事務局	長	山岸	晃	君君
事務局	次長	川出	喜朗	君君



二〇二五年度、(公社)南長野青年会議所の理事長の重責をお預かりするにあたり、私はスローガンとして「未来を創る 変革の一步」を掲げました。急速に変化する社会情勢の中で、地域の未来をより良いものへと導くためには、私たち自身が小さな一歩であっても、確かな“変革”を積み重ねていくことが必要だと強く感じたためです。本年度を締めくくりにあたり、この理念に共感し、ともに歩んでくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

二〇二五年度、(公社)南長野青年会議所の理事長の重責をお預かりするにあたり、私はスローガンとして「未来を創る 変革の一步」を掲げました。急速に変化する社会情勢の中で、地域の未来をより良いものへと導くためには、私たち自身が小さな一歩であっても、確かな“変革”を積み重ねていくことが必要だと強く感じたためです。本年度を締めくくりにあたり、この理念に共感し、ともに歩んでくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

本年度も人口減少や担い手不足、地域コミュニティの希薄化など、多くの課題が南長野地域を取り巻いていました。特に会員数の減少は深刻で、年度当初から組織運営の根幹に関わる課題として立ち回らねばならぬ状況に陥りました。

「変革の一步」であることと捉え、本年もLOM全体で拡大活動に力を注いでまいりました。「未来へ繋ぐ総務拡大委員会」が創意工夫を凝らす開催した長期間に及ぶ拡大例会では、経験の浅いメンバーに対し、拡大の重要性を伝えることができました。同委員会では資質向上系の例会も担当し、マナー講習やマインドフルネスに着目した例会も実施しました。全員が同じ方向を向き、一体感がこれまで以上に高まったことは、本年度最大の収穫であったと感じております。

助となる貴重な体験をすることができました。

地域開発事業として、「街コン×スポーツ」という

形で「次世代を創る交流委員会」が企画を進めてまいりました。しかしながら開催することが叶わず、開催できなかったという経験を、次年度以降にしっかりと繋いでいくことが必要であると考えます。関係諸団体の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。これも必要な経験であると捉え、メンバー各位のさらなる成長に期待しております。

国際交流では、姉妹JCであるJCI KOREA西大郎とのオンライン交流を行いました。四〇年以上続く友情は、世界情勢が不安定な中であっても、互いを尊重し、未来への架け橋となる関係性です。これからも変わらぬ思いで、絆を紡いでまいります。

二〇二五年度は多くの課題に直面する一年でした。しかし、その一つひとつに、対し、私たちは「未来を創る変革の一步」を踏み出すという覚悟を持って挑み続けました。この一年で積み重ねた努力と経験は、必ずや次年度以降の南長野青年会議所の大きな力となると信じています。

最後になりますが、本年度の活動を支えてくださった関係諸団体の皆様、先輩諸兄姉の皆様、そしてこの一年をとにもに走り抜けてくれたメンバーの皆様に、心より御礼申し上げます。二〇二六年度よりも、私たちが踏み出した小さな一歩が、地域の未来を照らす大きな光となるように、変わらぬご支援・ご指導をお願い申し上げます。二〇二五年度の御礼とさせていただきます。

本年も一年ありがとうございました。南
長野青年会議所に入会して以来、多くの記
事、そして編集後記を書いてまいりました
が、本年卒業を迎えるにあたり編集後記を
書かせていただくのも最後となりました。

本年の後半の活動は、会員の資質向上、西大郎との交流、そして来年に控える創立六十五周年・認承五十五周年に向けての事業となりました。会員の資質向上では、心を落ち着かせ、周りの音に耳を傾けることで、早朝より心にゆとりを持たせることが以下に大切であるか学ばせていただくことが出来ました。また西大郎の交流では、先輩諸兄が繋いできた絆を感じ取り、交流の大切の再認識をさせていただきました。

員の気持ちを高め、その重要性を理解し、特に一月例会では五十周年に向けて会
関係諸団体、先輩諸兄姉に南長野青年会議
所の活動と情熱を伝える場にならなければ
いけないと考えます。メンバーの心を一つ
にして周年式典、周年事業に残るメンバ
ーは望んでいたのだと思います。

本年は飯田一基君、青木充君、わたくし上條裕太の三名が卒業することになりました。各自後輩に今までの、そして今後の念^{おもひ}を伝え、南長野青年会議所を無事卒業することが出来ました。特に長年最前線で南長野青年会議所を引っ張って来られ、入会すぐに地区出向など精力的に活動されてくれた飯田理事長のスピーチは同じ年とは思えないほど素晴らしいものでした。きつと飯田直前理事長の熱意が次年度のプロック会長 平山亮太君、次年度理事長 酒井信治君、そして二〇二六年度メンバーをさらに素晴らしいＪＣに導いてくれるものと思います。

最後になりますが、かがり火をお読みいただき誠に有難うございます。来年度も南長野青年会議所が活躍してくれるのを祈願いたしまして私の編集後記を締めさせていただきます。皆様 本年も一年誠にありがとうございました。

事務局次長 上條 裕太



E-mail : minaminaganojc@herb.ocn.ne.jp

検索

かがり火のバックナンバーはホームページをご覧ください。